

令和5年2月定例会 文教委員会の概要

日時 令和5年3月17日(金) 開会 午後 1時  
閉会 午後 1時48分

場所 第8委員会室

出席委員 吉良英敏委員長  
阿左美健司副委員長  
内沼博史委員、新井豪委員、須賀敬史委員、中屋敦慎一委員、鈴木正人委員、  
江原久美子委員、蒲生徳明委員、山本正乃委員、秋山文和委員

欠席委員 なし

説明者 [教育局]  
高田直芳教育長、石井貴司副教育長、  
古垣玲教育総務部長、石川薫県立学校部長、石井宏明市町村支援部長、  
小谷野幸也教育総務部副部長、臼倉克典県立学校部副部長、  
岡部年男県立学校部副部長、栗原孝子市町村支援部副部長、  
大山澄男市町村支援部副部長、案浦久仁子総務課長、中沢政人教育政策課長、  
関根章雄財務課長、阿部正浩教職員課長、南雲世匡福利課長、  
田中洋安県立学校人事課長、田中邦典高校教育指導課長、  
佐藤直樹魅力ある高校づくり課長、山崎高延ICT教育推進課長、  
小西康雄生徒指導課長、松中直司保健体育課長、橋本晋一特別支援教育課長、  
阿部仁市町村支援部参事兼小中学校人事課長、渡辺洋平義務教育指導課長、  
平野雄三教職員採用課長、高津導生涯学習推進課長、松本光司文化資源課長、  
塩崎豊人権教育課長

[総務部]  
小野寺亘総務部長、片桐徹也人事課長

[埼玉県教育委員会教育長候補者]  
日吉亨浦和高等学校長

会議に付した事件並びに審査結果

1 議案

議案番号	件名	結果
第70号	埼玉県教育委員会教育長の任命について	同意

2 請願  
なし

【所信表明】

日吉候補者

本日は、委員会での所信表明の機会を頂き、感謝する。

初めに、昨日、私が勤務している県立浦和高校では、全日制課程の卒業式を行った。式では、保護者や教職員が見守る中、マスクを外した卒業生の晴れがましい顔を見ながら、卒業証書を手渡すことができた。振り返ると、今年の卒業生が入学した3年前は、新型コロナウイルス感染症の影響による学校の一斉臨時休業から始まり、6月の再開後においても、その年は文化祭の中止など様々な教育活動の制限があった。今年度になり、おおむね計画どおりに教育活動を行うことができている。生徒にとって、授業や部活動や学校行事などの日常が当たり前のように行われるということが、いかにかけがえのないものであったかということに改めて感じている。

さて、私は埼玉で育ち、埼玉で学んだ。昭和63年に県立大井高校に着任以来、35年間にわたり、公立高校及び教育局で勤務をさせていただいた。この間、社会は、新型コロナウイルス感染症の影響だけでなく、少子高齢社会の到来、急速なグローバル化の進展、超スマート社会の実現に向けたデジタル技術の発展など、急激に変化している。さらに、不安定な国際情勢、地球温暖化に伴う自然災害など、将来の予測が困難な時代を迎え、地球規模での課題への対応も求められている。また、本県の教育においては、感染症対策と両立した、これからの児童生徒の学びや、ICTを活用した教育の更なる推進、障害のある児童生徒や、外国人児童生徒等の増加への対応、ヤングケアラーへの支援、性の多様性を尊重した社会づくりや、家庭を取り巻く環境の変化への対応など、様々な課題がある。このような時代において、教育委員会には、全ての児童生徒が持っている能力や可能性を最大限に伸ばし、郷土埼玉と我が国の将来を担う人材を育成するという重い責任がある。加えて、生涯学習の推進、文化芸術の振興を通して、全ての県民の皆様にも潤いのある豊かな人生を過ごしていただくための幅広い分野を所掌している。私は、今後の公教育の充実を図っていくに当たり、第3期埼玉県教育振興基本計画の基本理念「豊かな学びで未来を拓く埼玉教育」を踏まえ、これからの社会の変化を見据えた長期的な展望に立ち、子供たち一人一人を誰一人取り残さない決意を持って、諸課題に対応していく。

まず、学校においては、児童生徒一人一人の「学力向上」が最も重要であると考えている。全ての子供たちに、学ぶことそのものの楽しさや分かる喜びが行き届くようにし、自らの人生を豊かなものにするとともに、より良い社会の発展に参画することのできる人材の育成に取り組むことが必要である。そのため、まず、基礎的な学力をしっかりと身に付けさせること、あわせて、予測困難な社会の変化にも柔軟に対応できる力を養うとともに、自ら課題を発見し、他者とコミュニケーションを図りながら、協働して学び合う力の育成を行っていく。本県独自の取組である、埼玉県学力・学習状況調査を活用した指導の改善をはじめ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、教科等横断的な学びやグローバル化に対応する教育の推進などの取組を、更に発展させていきたいと考えている。また、このコロナ禍において、学校では、児童生徒一人一台のタブレット端末等の導入が進んだ。ICT機器を今後の子供たちの学びに効果的に活用することも重要である。県の進める「デジタルトランスフォーメーション推進計画」などを踏まえ、教育分野においても情報化を進め、児童生徒一人一人の個別最適な学びを行っていく。

次に、児童生徒の健やかな成長のためには、夢や希望を持ち、その実現に向けて粘り強く努力することや、自己肯定感や他者への思いやり、社会性などの豊かな心を育むことが

重要である。そのためには、全ての大人が子供たち一人一人を、未来の日本を支える大切な宝として見守り、また、関わりながら育てていく必要がある。教育は、言うまでもなく、学校だけで行われるものではなく、家庭や地域社会が学校と助け合って教育の場としての十分な機能を発揮することで、子供の健やかな成長につながるものとする。そこで、自然体験や社会体験、文化芸術活動などの様々な体験活動を充実させ、体験を通じた学びを重視して、自分の力を信じ、失敗を恐れずに困難に立ち向かうチャレンジ精神を児童生徒に育てていく。教育委員会として、学校が家庭や地域、企業などと連携しながら、社会全体で子供たちへの教育を進めていくことができるよう、しっかりと支援していく。

次に、いじめや不登校、性的マイノリティやヤングケアラーなど様々な悩みを抱えている児童生徒には、教育相談体制や支援体制を充実し、一人一人に目配りをし、寄り添いながらきめ細かく支援することで、誰一人取り残さない教育に、しっかりと取り組んでいく。

次に、特別支援教育について、インクルーシブ教育の観点を踏まえ、障害の有無にかかわらず、全ての児童生徒が同じ教室で学ぶという考えを大切にしつつ、支援籍学習や交流及び共同学習を進めるとともに、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった連続性のある多様な学びの場の整備を進めていく。

また、学校の働き方改革についても、教員が子供と向き合う時間を確保し、心身共に健康で充実した日々を送ることは、生徒理解や授業改善を促し、また、優れた人材の確保にもつながることから、「学校における働き方改革基本方針」を基に取組を全力で進めていく。

次に、教職員の不祥事の根絶について、教育に携わる者の使命は、これからの時代を心豊かに生き、未来を自分の手で切り開くことのできる子供たちを育てていくことであり、そのような無限の可能性を持つ子供たちの成長を、本気になって支えていくことだと考える。相互の信頼なくして、教育は成り立たない。教職員一人一人が、崇高な使命を胸に刻み、職務を遂行できるよう、研修の充実などを通じて教職員の意識を高め、不祥事を決して起こさせない環境づくりなど、あらゆる手立てを総動員して不祥事の根絶に取り組んでいく。

結びに、私は、これまで仕事において、こまめに現場に足を運び、児童生徒の活動の様子を観察し、様々な方々の話に耳を傾けることを心掛けてきた。課題解決の重要なヒントは現場にあると信じている。学校現場と教育行政の双方の経験を生かし、児童生徒、保護者、教職員、地域などの声に真摯に耳を傾け、県議会の皆様方の指導を頂きながら、次代を担う子供たちの健やかな育成、埼玉教育の更なる発展のため、教育長としての職責を果たしていく決意である。よろしくお願ひ申し上げます。

---

### 【候補者に対する質疑】

#### 内沼委員

- 1 不登校やいじめが県内でも増えているが、どう考えるか。
- 2 本県は全国で初めてケアラー支援条例を制定した。ヤングケアラーの問題が様々な地域で話題になっているが、ヤングケアラー支援が全国で最も進んでいる本県の教育長として、どのように取り組んでいくのか。
- 3 魅力ある高校づくりについて、県立高校の倍率が上がらない状況があり、地方の高校も様々な取組を行っている。候補者の履歴を見ると、都市部の高校の校長など様々な経験をされているが、今後、県民が県立高校に行きたいと思えるように、魅力ある高校づくりを進めることについて、どう考えるのか。

#### 日吉候補者

- 1 本県でも不登校の数は増えており、特に、コロナ禍で増加していることは大きな課題

と捉えている。学校現場では、教員やカウンセラーなど皆で関わりながら、子供たちを支援している。まずは、学校という場所が、子供たちにとって安心で自己肯定感が得られるような場所にしていくことが必要である。場合によっては、外部の機関やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどと連携しながら支援していくことも必要である。

2 ヤングケアラーの支援については、私が勤務している学校にもいるが、困難な中でも一生懸命に学んでいることはすばらしいと感じている。状況は様々なので、子供のニーズにしっかり寄り添い、必要に応じて連携機関に相談しながら対応していくことが必要である。

3 地方でも魅力ある学校づくりが進んでいることは承知している。県立学校部副部長のときに、児玉新校等の整備について、市役所や地元の方などの話を直接伺ったり、学校で説明したりしながら進めていった。再編整備は、子供たちの教育を充実させるためのものであるが、学校が一つなくなると、それに関わっているお店の方や、バス等の公共交通機関など地元の方々にも影響が出ることは十分に承知しているので、様々な人の話を伺いながら、丁寧に進めていく必要がある。

### 内沼委員

候補者は現場をよく知っていると思う。不登校やヤングケアラー、魅力ある高校づくりを含めた教育行政について、現場をよく見ながら進めてもらいたいと思うがどうか。

### 日吉候補者

現場に課題解決のヒントがあると考えている。学校では、日々校内を回りながら子供の実態を見て、学校運営をしている。立場が変わっても、そのことをしっかり心に刻みながら対応していく。

### 新井委員

いじめの認知件数が、一昨年までの6年間で、全国では2倍、本県では3倍に増えているという現状がある。この数字に対して、こうしていきたい、こうすべきだという意気込みや目標はどうか。

### 日吉候補者

いじめは非常に卑劣な行為であって、絶対にあってはならない。ただ、その数が増えているということは、認知件数が増えているということだと思うので、学校がしっかり見届けた結果として数が増えているという可能性もある。しかし、やはりいじめがある、困っている子供がいるということは、学校としてしっかり対応しなければならないので、教員などの個人に任せることなく、学校全体で組織として、また、必要に応じて教育委員会が支援しながら、いじめがなくなるよう取り組んでいきたい。

### 新井委員

候補者の言うとおりの認知件数は増やしてよいと思う。私はこれまで、特に隠蔽体質ということに注視してきた。認知件数を増やす努力について、どのように考えるのか。

### 日吉候補者

認知件数を増やすことについて、そのとおりだと考える。いじめの関連法規を教職員にしっかり理解してもらい、少しのいじめの芽も見逃さないよう取り組んでいく。

### 須賀委員

企業との連携について、企業は社会貢献したいという意欲がとても高く、これを公教育の充実に結び付けるのはとても大事な視点だと思う。候補者のイメージする企業との連携

とはどのようなものか。

### 日吉候補者

企業との連携については様々あるが、例えば、浦和高校では、一線で活躍されている卒業生が多いので、定期的に開催するセミナーに招いて、在校生に話を聞かせている。それによって生徒が大きく変わり、希望や夢を持つようになる。企業で一生懸命活躍して頑張っている方々と連携し、子供たちに夢や希望を持たせていくというようなことが必要である。

### 中屋敷委員

現場主義で現場を大切に思っている中で、新型コロナウイルス感染症の影響で学校を臨時休業とせざるを得なかった当時の気持ちはどうか。

### 日吉候補者

高田教育長が赴任され、私も県立学校部長の立場にあったが、令和2年4月の年度当初から学校を引き続き臨時休業としなければならなかった。戸惑いもあったが、何とか学びの保障をしなければならないと考えた。ICT教育のための回線や学校にあるコンピューターの台数など不足している部分もあったが、そのような中で、学校現場で少しでも学びを止めないような工夫をしてきた。

### 鈴木委員

- 1 候補者は大井高校の教諭から始まり、現在は浦和高校の校長ということで、様々な子供たちと接してきたと思う。浦和高校は、「尚文尚武」という文を尊び、武を盛んにする文武両道のすばらしい学校だが、時代が変わり、我々の時代から比べれば優しい教育になっているように感じる。未来の日本を支える人材を育てていきたいということだが、社会は決して甘いものではないので、一定の厳しさも教えなければならないと考える。子供たちに対して、日本を支える立派な人材になるための厳しさをどのように教えるのか。
- 2 グローバル化を更に発展させていきたいということについて、あらゆる子供たちが世界に羽ばたいていくことは良いことであるが、子供たちが自分たちの国の歴史や伝統、文化を知らずにその場所に行って恥をかくという話を何度も聞いたことがある。グローバル人材の育成と併せて、日本の歴史や伝統、文化をどのように教えていくのか。
- 3 誰一人取り残さないということについて、相談体制やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの充実が大切だと思っている。できれば常勤化してほしいと考えるが、どの程度充実させていきたいと考えているのか。

### 日吉候補者

- 1 浦和高校の校訓である尚文尚武は文武両道ということであり、一定の厳しさが教育には必要であると私も考えている。浦和高校では、50キロメートルを7時間で完走しなければならない古河マラソンという強歩大会を実施している。完走率は7割程度だが、大事なことは完走を求めることではなく、個人個人の頑張りを認めることである。途中で水が飲みたくて座り込んでしまった生徒に、後から来た先輩が自分のペットボトルを渡し、その生徒は元気を出し走り始めたということを知ったことがある。ただ厳しいことを与えるだけではなく、仲間意識のようなものを醸成しながら厳しさを教えていく必要がある。
- 2 これから国際社会に生きていく日本人にとっては、我が国を愛する気持ち、また、他国を尊重する気持ちはとても重要である。そういったことはあらゆる教科の中で取り組んでいかなければならない。
- 3 予算も関わることなので、一気に大きく進むということは難しいかもしれないが、現

場の実態などを見ながら、しっかり対応していきたい。

#### 鈴木委員

グローバル人材の育成について、日本の歴史や伝統、文化を具体的にどのような形で教えていくのか。

#### 日吉候補者

社会科の教科の中でしっかり教えていくべきだ。また、総合的な探求の時間なども活用しながら教えていく。

#### 秋山委員

- 1 経歴を見ると、小・中学校での勤務経験はないが、大人は子供を宝とみるべきだという考えには非常に共感を覚える。教育委員会も現場も経験され、両方をよく知っていると思うが、本県の課題である教員の未配置・未補充問題について、どのように解決を図っていくのか。
- 2 不登校が増えているが、これは義務教育を受けさせる大人側の責任として大きな問題である。子供側の問題ではなく、教育をさせていく側の努力が求められていると考えるが、どうか。

#### 日吉候補者

- 1 小・中学校での勤務経験はないが、幼稚園から高校までの4種類の教員免許状を持っており、多少は大学で学んでいる。これから一生懸命勉強させていただく。未配置・未補充の問題は難しい問題だが、教育委員会において、大学との連携やペーパーティーチャーの掘り起こしなどを既に実施しており、引き続き、教員の魅力を伝えながら、教員を増やしていく。
- 2 不登校について、それぞれ置かれている状況は違い、家庭環境や学校の中の問題を抱えている可能性もある。子供たちにしっかり寄り添って話を聞きながら、大人の立場として何ができるか、教員として何が支援できるかについて、子供の目線で考えていく。

#### 秋山委員

教育は大事である。しかるべき予算を確保し、国の予算がなくても県独自で、未配置・未補充の問題に取り組むことについて、どう考えるのか。

#### 日吉候補者

予算については、議会の指導を頂きながら進めていかなければならない。子供たちに対してしっかり教育を行い、現場の意見などもお伝えしていく。

---

#### 【付託議案に対する質疑】

##### 鈴木委員

教育長になる方は、経歴の最後が浦和高校の校長であることが多いが、理由はあるのか。

##### 総務部長

知事からは、日吉氏が適任であるということで提案したと聞いている。

##### 鈴木委員

浦和高校と関わりがなければならないということはあるのか。

##### 総務部長

そのようなことはない。

---

**【付託議案に対する討論】**

なし

---